

3
二 沖
三 通
四 作
五 戰

郵戰高射砲才八十大隊次實資料

昭和二十二年三月五日

第三十三軍殘務整理部

一、部隊の履歴（中略）進駐マニラの履歴

昭和元年七月一日帝都府内空軍團より現役將兵約二五〇名
外に空飛福島新野富山長野群馬埼玉東京横濱
熊本茨城千葉各縣隊心付り予備役將兵約二七〇
名を時時召集し千葉縣市川市原部才七三部隊に於

て秋五野戦高射砲隊才八〇大隊を編成す
今年七月三日編成完了結し才三三軍の部下に於り通

稱号は才三三部隊とす

今年青島日松三縣出張

七月青島門司出張

八月八月日門司港出張

八月八月日門司港出張

一、部隊の作戦開始時の編成
 野戦高射砲隊 八、大隊編成表

大隊本部	官職氏名	官職氏名	官職氏名
少佐	須藤久七	中尉	山田兼成
大尉	副官 桐生武雄	少尉	濱野秀一
大尉	班長 西尾重固	少尉	三平義人
大尉	班長 佐藤忠信	少尉	野村敏吉
少尉	小林彌六	見士	市瀬正
少尉	龍 敬	見士	石井耕一
中尉	副官 内尾直二		
中尉	副官 地哲三郎		

編成定員 五三二名
 編成物資 六五七名
 兵器

一式野戦高射砲 八門
 測高機 四
 測定機 四
 対空双眼鏡 七
 編成

昭和九年七月廿五日
 東京陸軍部野戦重砲隊司令部
 野戦重砲隊司令部 野戦重砲隊司令部 野戦重砲隊司令部

編成開始

昭和九年七月三日

野戰高砲隊第一大隊 大隊長陸軍少佐 須藤久
七以下大隊本部一隊 中隊 才三隊 才三隊 將校一九名
下士官並士名 兵四七名 合計五三名 兵署八式野
高射砲一八門(牽引車一) 編成完結 才三軍二
過今令命せられ編成、細野八附表才一、知三

二輸送

昭和九年七月三日 秋戸取発 七月三日間司取着
同日 八月一日 八月一日 八月一日 八月一日
同日 八月一日 沖繩縣那霸市上陸

三警備並空戦

昭和九年八月二日

中頭郡其谷村字野里中飛行場整備命令せられ
同日 八月五日

飛行場整備備陣地構築開始

九月三日

高射砲陣地構成 展開部署附圖才二、始三

八月四日

米軍飛行機区元沖繩本島上空ニ来、偵察又大隊長
大塚復本部ヲ集合セシテ、空襲アルヲ知、三下至
敵、此機ヲ捕到ル前線ヲ命セ、同日、

昭和九年八月五日

軍命令表リテ一隊ヲ國領部濱崎ニ預底嶋附近警備ノ爲轉進セシム行動ノ細部約圖ガニ如シ

一月一日

南西空襲ヲ宣戦。○ニシテ東方ヨリ米軍機數多ク隊艦載機四機綿隊飛隊北飛行村及ビ中飛行場ニ侵入ス大隊ハ好敵機ヲ獲テテニテ射更ス敵ノ攻更ハ夕刻迄類固ニ立リ致状的侵ハニ主トシテ飛行場施設高射砲陣地ヲ爆轟セリ杜ノ自決嶋上空ニ侵入テ中隊此ノ激斗ニ戦死ニ戦復ニテ出セリ大隊ノ上空ニ飛来セル敵機ハケラマン片雲ノ令下B下カニテスSBBニ令下BB近約八四〇機大隊ノ修多戰果在ノ如シ

直墜ニ六機破一〇此ノ戦斗ニ當リ敵機ノ発見

敵機ニテ自射更良ナリノ高射砲司令部ヨリ賞詞授ケル

自一月二日

台湾沖航空戰

至一月五日

敵大機動部隊攻更ノ考北及中飛行場ニ離着陸スル友軍飛行機警戒ヲ掩護ニ任ス

一月一日

決戦ニ轉進ニ居タル亦一中隊ハ那霸港掩護ノ爲那霸市

中級海岸ニ陣地ヲ設ケ

育百

陣地附近ニ三角兵舎ヲ完成ニ移轉ス

必道ヨリ大甲ヲ戰況ニ詳報戰況ニ帝國ノ空勝ヲ確信

三大隊全員日復警備ヲ行全日期ニ續訓練ニ終始ス

自昭和二年一月二日

至一月五日

対空戦

敵艦載機カランハ六万四千五百近約者機上空侵入飛
行施設及集積物資ヲ銃爆更ニ之ト交戦更退ス

自一月三日

対空戦

至一月三日

敵艦載機止七〇機上空侵入高射砲陣地港湾施設
施設飛場施設集積物資ヲ銃爆更ス大隊ハ之ヲ要更
戦斗三九戦果ハ修ム

更退 二

更破 二〇

此、戦斗三高射部隊、戦果大ナルモ、アリテ軍司令部ヨリ
賞詞授与サル

一月二日

太平洋戦況愈々道ニ軍命令ヲ以テ自是地ニ予備陣地
築作業隊ヲ派遣ス

三月中旬

此頃以降連日ヨリカント自一〇〇至一四〇間沖繩本
島ヲ哨戒ス本島偵察並海上船、攻更ヲナス

三月六日

ホイヤグロ元四機沖繩本島偵察

三月一日

対空戦

敵艦載機カランハ六万四千五百近約者機上空侵入飛
行施設及集積物資ヲ銃爆更ニ之ト交戦更退ス

三月一日

射砲陣地飛行場、集積物資ヲ銃爆更ス

宮中賞詞授于中

東洋

魚破 一四

此日神繩出身新年祭一七名入隊ス

三月三日

連日神繩本嶋ヲ哨戒スル敵機B二面ノ射撃甚ク軍命令ヲ以テ之ガ狙撃ヲ狙撃ヲ命ゼラレ大隊ハ元一中隊ヨリ富塚少尉ヲ長トシテ砲二門ヲ以テ狙撃砲兵隊ヲ編成シ中頭郡国吉屋取ニ陣地進入セシ

三月六日

神繩防衛日集四〇名入隊予備陣地作業隊ニ配属セシム

三月一日

狙撃砲兵隊ニ更ニ強化シ本部ヨリ小林少尉ヲ派遣頭上郡許田及辺土名ニ陣地交換ヲ命ジ遷動狙撃砲兵隊トシコンソリデーラッドB二四ノ重退ニ勤ム行動細部附圖示一〇然

四神繩戦斗

昭和六年三月三日

敵機大編隊神繩ニ接近、情報ニ大隊ハ配置ニ付キ敵機ヲ待ツ度良奇上空ニ敵機ヲ認ム。敵機大隊ノ威力園内ニ入リヤ機ヲ矢ニ射撃開始ス第一回ノ射撃ニ重破ヲ得大隊ノ士氣大ニ揚ル敵機ハグラミン機六機全片四機全トBFカチチスSBZニ全ク降リ遂ニ敵機ヲ増シ主トシテ水際陣地ヲ攻メス大隊長上降ノ企圖ヲ敵破シ各中隊長ヲ電話ニ召致シ訓示ス訓示率旨尤ハ如シ

敵ハ上陸企圖ヲ有スルモ、此ニ各隊死力ヲ盡シ敵機ヲ重破セ

日射撃要領ノ細部ヲ訓示シ其ノ節度指揮スルノ外ハ景示

七ノ敵機上陸空襲示三号ニ依ル

敵機日没ニ去ル

三月二十四日

拂曉敵機一機襲昨日三倍大隊ハ之ト敵機三機破壊敵機ヲ
得陣地一部破壊セルモ士氣極多盛ナリ

此日遊動艇更隊敵火ヲ肩テ所屬部隊ニ補給ス

三月二十五日

黎明西南方洋上ニ北上方ニ敵艦船ヲ見ル敵艦船ハ
朝霧ノ中ヨリ續々北上方ニ大隊陣前ノ高ヲ仰正面上ニ通リ其ノ
數々得ルモノ戰艦ニ洋艦取送艦合計三隻又一二〇〇噸ヨリ北
飛行場ニ対シ砲更開始ス大隊八陣地ニ刺到スル敵機ヲ激更奮
斗ス夜ニ入リ敵機攻更續トナリ小原ヲ得

三月二十六日

陣前海上面敵艦船七隻更敵列トナテ北上方南下方ニ敵機
航行ヲナシテ遊動艇ノ水際陣地飛行場高射砲陣地ニ討シ砲更ヲ
加フ大隊ハ敵機并機艦更隊及觀測艦ニ討シ猛攻更然始

陣地ノ南境甚ク敵死傷續出ス

一五四。外。三月二十六日八機大隊陣地ヲ急降下撃更スオ二オ二オ三中
機多連墜焼上セシム 大隊長以下敵機ノ場ノ戦意大ク揚ル
友軍特攻中飛行場着陸ノ情報ニ相繼グテ一七三北方ヨリ友軍
九九式軍偵察機七機并飛行場ニ到リ着陸ヲ考族回ヲナス此
ノ時敵機下六斤三機之ヲ見テ攻更ス 大隊長ハ機ヲ零テ敵機
ヲ射更ス其ノ二番機ヲ更破シ他ヲ更見シ三機ヲ着陸セ
シム 友軍ノ高射砲司令部隊軍命令依リ北飛行場高
射砲隊ト共首領地ニテ予備陣地ニ轉ニ轉進ス大隊長ハ依然中
飛行場警備ノ任ヲ有シテ損傷火砲ノ修理陣地ノ補修工
事ヲ之ヲ明日敵機ヲ遊動艇ノ力ヲ以テ
大隊幹部高射砲司令官ヲ京上ニ見送り死任部員
連谷中尉ヲ

三月二十六日
友軍ノ高射砲隊ヲ補給開始ス。五三〇四光ノ背ヲ以テ敵

解中飛行場ヲ離陸旋回スル時洋上ニ敵隻ノ敵艦ヲ見
一、三島射砲高射機関砲ノ彈幕ヲ張ル、特攻隊公使機
二、機砲射更及爆更ハ特ニ燃烈ニシテ大隊陣地ハ七〇%破壊サレ
火砲一科完全破壊サレ

三月六日
敵艦砲射更ハ大隊陣地ニ間斷無ク續キ陣地相親ヲ変スルド
大隊益々敵斗精神旺盛ニシテ陣地ニ在リテ敵艦ヲ攻更ス
夜ニシテ艦砲ノ彈幕射更ハ外ハ情況稍緩トナル
中飛行場大隊ノ集積彈幕及集積貨物ノ焼却ヲテ敵艦ヲ
細上運備ハ徒歩戦斗ヲ準備ス大隊又対空戦斗準備ヲス一方徒
歩戦斗ヲ準備ス大隊又対空戦斗準備ヲス一方徒歩戦斗ヲ準備
三〇運給掛下士官ト等嶋尻部誠名高射砲司令部ニ派遣

中長崎曹長師隊軍命令全隊又軍首長ノ如シ

軍命

一、敵高射砲ノ亦ハ大隊ノ野里陣地ヲ撤去ニ首里地ニ一備陣
二、陣地交換ヲ命ズ

二、任務首里地ニ対空及敵空機部隊ノ警戒並津嘉山辺
集積貨物ノ掩護ニ任ズ

直ニ大隊長ハ各隊ニ即陣地交換ヲ命ズ

三月六日

敵砲彈下各隊陣地ヲ撤去ニシテ未完成ノ首里地ニ一備陣
地交換ヲ命ズ

陣地展開ノ細部附圖ヲ示シ
新陣地完成ヲ急ガ一方対空戦斗ヲ實施ス

三月六日

敵東江北谷上陸情報

三月六日 首里地ノ上空偵見セ敵艦ニ對射更ヲ射更ス

四月九日以降

軍命令ニ依リ軍砲兵隊司令部ノ指揮下ニ地上射更ニ協力
ヲ命ジテ奮闘シテ空戰有テ敵後ニ集積所及部隊ノ
密集地並ニ陸地矣戰車群等ニ對シテ擧射更ヲ實施ス

四月三日
大隊本部及一中隊ハ津嘉山ニ陣地ヲ推進シテ對地射更並
ニ直撃地上空掩護ヲ強クス

四月四日
軍砲兵隊ノ成果大ナルニ鑑ミ軍司令部ヨリ態狀授与スル

五月四日
軍ノ総攻直撃力ニ對テ黎明ヨリ陣地ニ付テ全火砲損傷ヲ省ズ對
重ヲ續行スレニ對シ猛烈ナル艦砲射更ヲ受テ戦死傷者續出
陣地ノ南端火砲ノ毀損破損甚大ナリ便使用ニ堪ヘズ火
砲有テ直ニ洞窟陣地内ニ火砲ヲ搬入修理ヲ急ガ

五月五日
湘原ノ戦ヲ協力スル者ナシ小隊首里其方右嶺ニ陣地ヲ交換ヲ命ゼラ

自五月二日
至五月五日

敵艦砲射更ニ對シ大隊火砲ノ損耗甚シク連日連日修理ニ全カク注
力シテ進軍ノ阻害ヲ免ズ敵射更精度不良トナル友軍ノ準備線
亦道里ニ圧迫サレテ反ニ敵ノ艦砲地上砲空爆六日ニ自機列トナル

五月三日
大隊ノ最良陣地ヲ未須ニ後退ヲ命ゼラレテ平繩戰以來五月二六日迄ノ
戦果尤リ如クニ

對空戰
三四機

更砲
一四〇機

對地上射更

集積所留上

敵密集地擧射
青島方面
便用場工火砲軍力ニ對シテ
命ジテ奮闘シテ空戰有テ敵後ニ集積所及部隊ノ
密集地並ニ陸地矣戰車群等ニ對シテ擧射更ヲ實施ス

歩高射歩兵大隊編成及編成大隊要員
高射砲八大隊 砲一人員三〇 才三連隊長鈴木大尉指揮

高射歩兵 才二大隊
大隊長 須藤少佐

本部中隊長 西尾大尉 才三中隊長 山田中尉

山鏡小隊 人員五七名
急進爆雷中隊 人員一二名
手榴彈小隊

才一中隊長 三澤中尉
小鏡小隊 人員七〇名
急進爆雷中隊

才二中隊長 佐藤大尉
小鏡小隊 人員一二〇名
急進爆雷中隊
手榴彈小隊

六月二日
獨立混成才留旅團二配屬ヲ命ゼラル左記要員ノ命令ヲ受ク
四田旅團命令要員高射歩兵才二大隊八直チニ眞栄平八重
瀬出東方面ノ敵ヲ攻更更退スベシ

自六月一日
至六月二日

眞栄平八重瀬出徒歩才斗
大隊八直チ眞栄平八重瀬出展開内彈敵ヲ攻更スルト敵
ノ銃砲更載車火焔放射攻更考死傷續出全滅ニ瀕シ
才三泰又龍ハ

六月一日
止ニ無シ主隊者ヲ集金三ノ旅團命令ヲ斬込戦斗準備
ヲナス大隊最後ノ死斬込戦斗編成左ノ如シ

大隊本部
才一班 大隊長 須藤少佐
長嶋善長

淡山兵長

二班以下一、班三名 一四班 四三名

高射部隊 右全八班 二四名

徒勇一平隊(真栄平八重瀧兵、戦手全威)

才二中隊 七班 二一名

才三中隊 二班 三三名

備考 步行不能、重傷者、者少

裝備 軍刀、銃、劍、手榴彈 各人二個

六月九日 才三中隊新山出発 全威又

六月九日

大隊本部

才一中隊

才二中隊

新山出発 全威又

結

結戦後野戦高射砲才八〇大隊生存者七三名(外約八三名)中編守
 備三散葉又 野戦高射砲才八〇大隊編成表 昭和九年七月三日

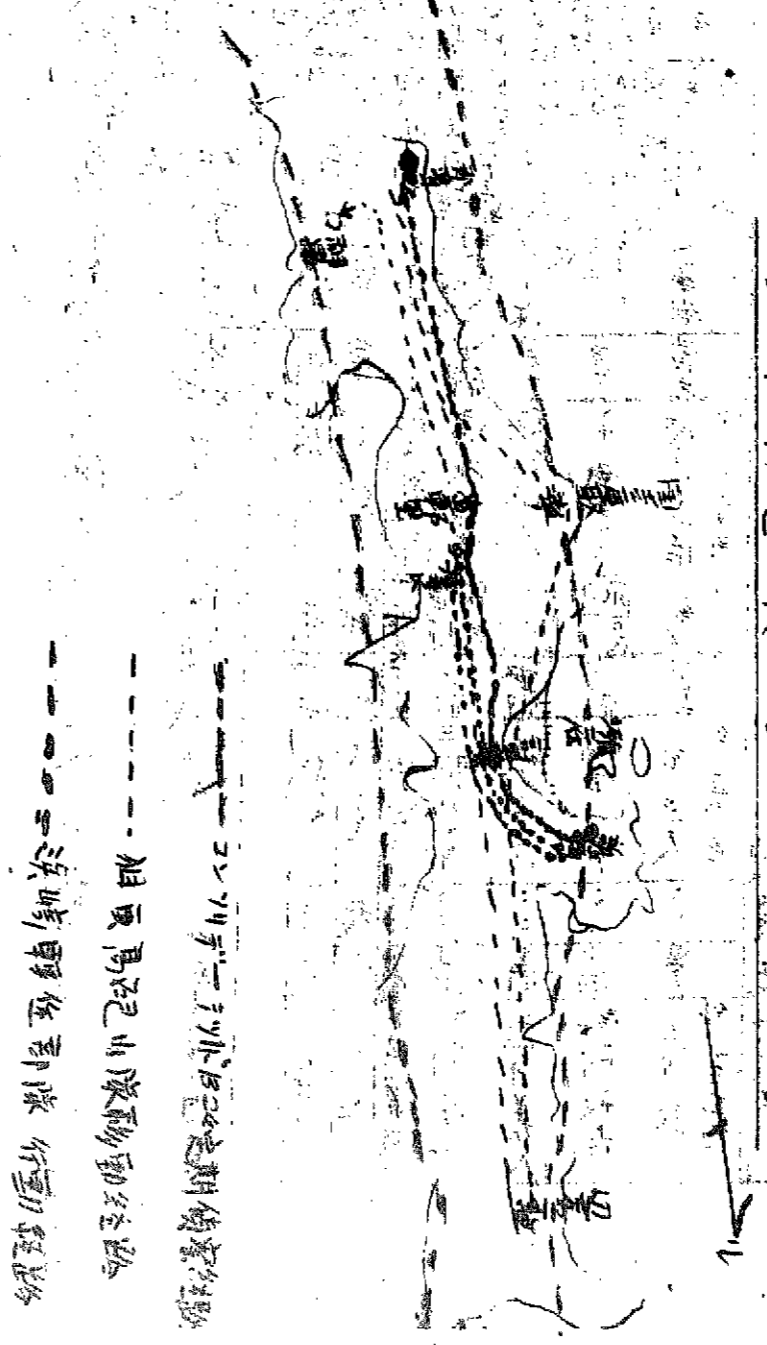
大隊本部	才一中隊	才二中隊	才三中隊
官氏名	官氏名	官氏名	官氏名
大隊長 須藤 幸三郎	中隊長 長瀬 喜久雄	中隊長 山本 武史	中隊長 小野 孝吉
副中隊長 相模 西尾 全	中隊長 高野 武	中隊長 山本 武史	中隊長 小野 孝吉
小隊長 相模 西尾 全	中隊長 高野 武	中隊長 山本 武史	中隊長 小野 孝吉
小隊長 相模 西尾 全	中隊長 高野 武	中隊長 山本 武史	中隊長 小野 孝吉
小隊長 相模 西尾 全	中隊長 高野 武	中隊長 山本 武史	中隊長 小野 孝吉
小隊長 相模 西尾 全	中隊長 高野 武	中隊長 山本 武史	中隊長 小野 孝吉
小隊長 相模 西尾 全	中隊長 高野 武	中隊長 山本 武史	中隊長 小野 孝吉
小隊長 相模 西尾 全	中隊長 高野 武	中隊長 山本 武史	中隊長 小野 孝吉
小隊長 相模 西尾 全	中隊長 高野 武	中隊長 山本 武史	中隊長 小野 孝吉
小隊長 相模 西尾 全	中隊長 高野 武	中隊長 山本 武史	中隊長 小野 孝吉
小隊長 相模 西尾 全	中隊長 高野 武	中隊長 山本 武史	中隊長 小野 孝吉
小隊長 相模 西尾 全	中隊長 高野 武	中隊長 山本 武史	中隊長 小野 孝吉

兵器

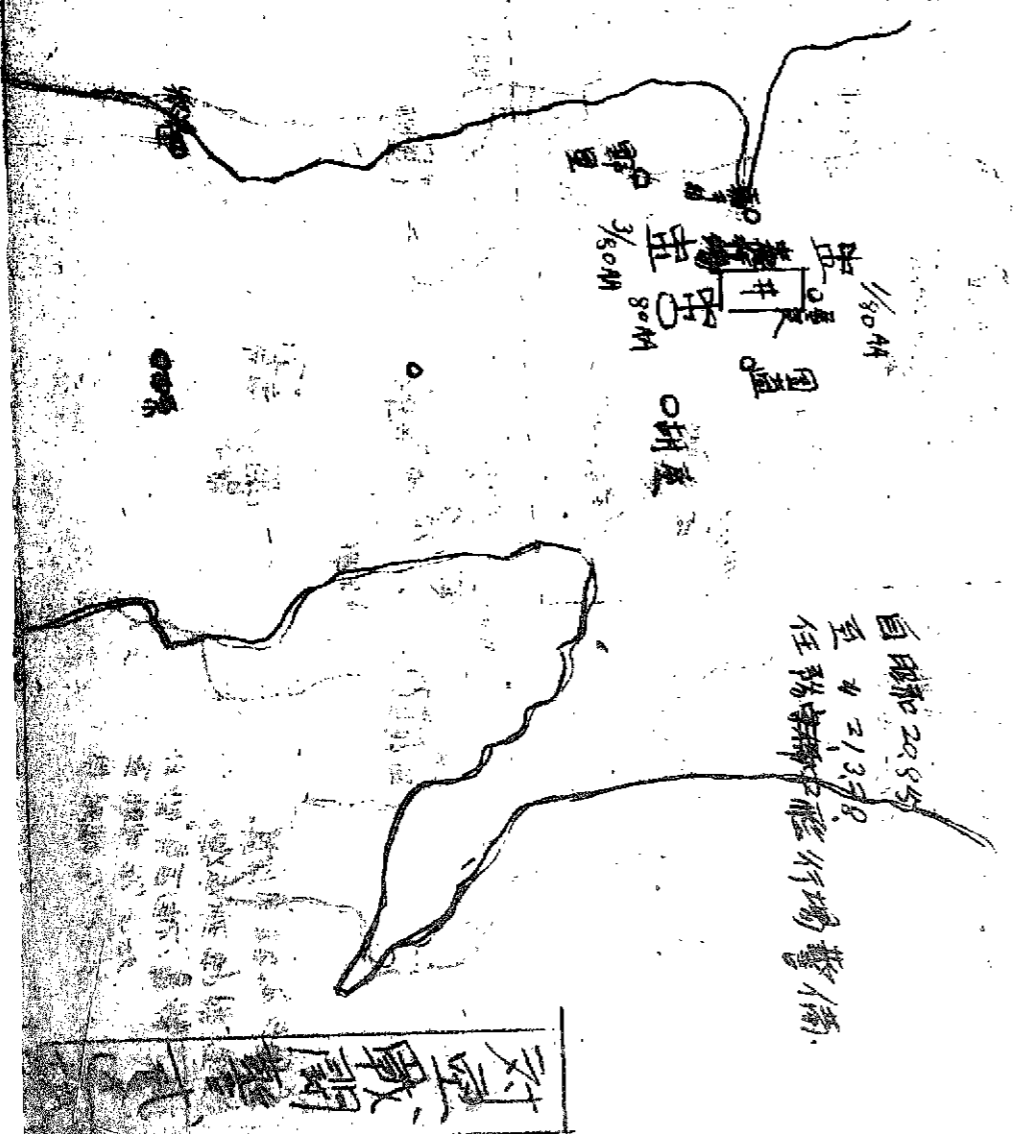
十顆... 八... 三...

...
...
...
...

漢時軍部隊 (自加東) 行動要圖
 祖庚高射砲三山隊



附圖元三



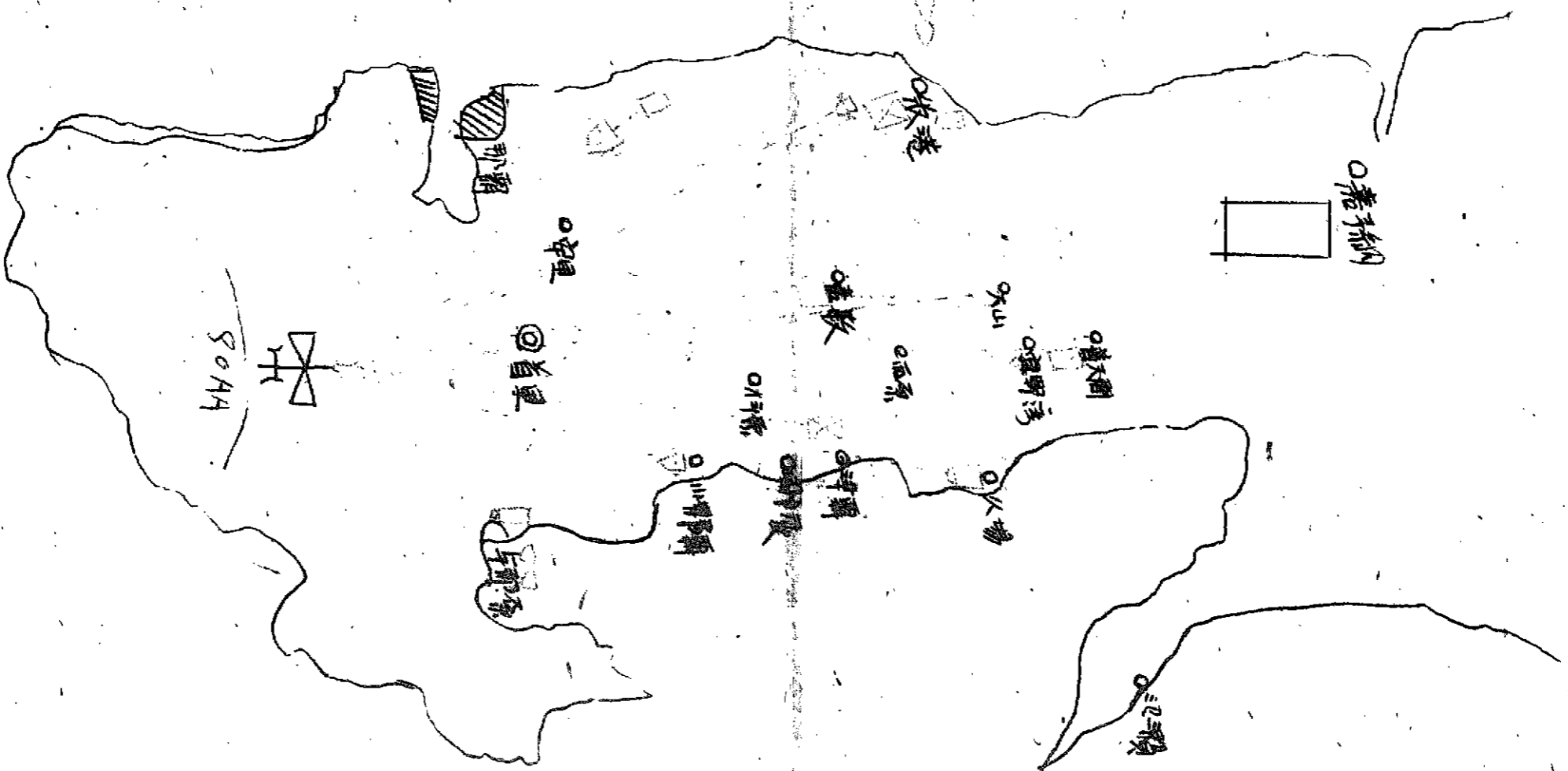
自加東 20845
 至 務 21378
 任 務 中 隊 行 動 警 備

附圖元三



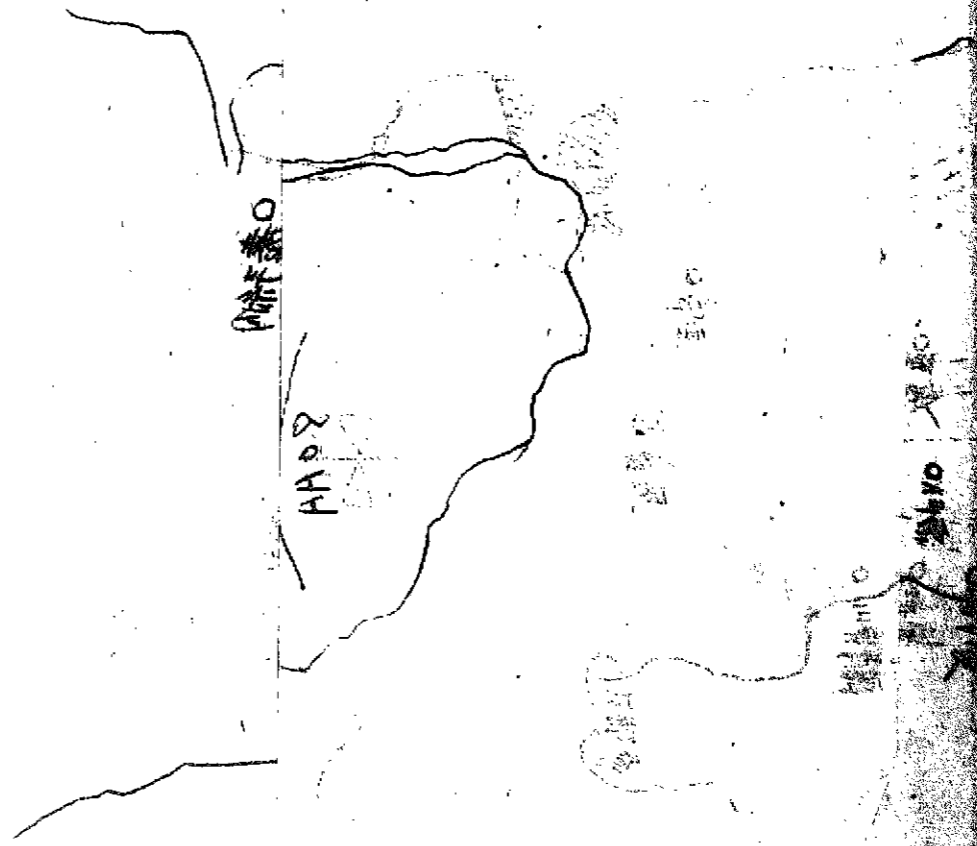
友軍開警北城圖

友軍開警北城圖



自製三季青林自雷村地學開要圖

所圖北川



一 指揮 隷屬 配屬 新 係

指揮下

配屬

通

高

自今年四月
至今年六月三十日
至今年七月
至今年七月
至今年七月
至今年七月

至今年七月
至今年七月
至今年七月
至今年七月

高射砲隊
野戰部隊

第五混成方面旅団

高射砲隊
野戰部隊

一 戰鬥 實施 場所

至今年四月
至今年五月
至今年六月
至今年七月
至今年八月
至今年九月
至今年十月
至今年十一月
至今年十二月

至今年四月
至今年五月
至今年六月
至今年七月
至今年八月
至今年九月
至今年十月
至今年十一月
至今年十二月

左 全
右 全
中 全

全 全 全

全 全 全

自昭和三年三月
至三月
至三月
至三月
至三月
至三月

左令
汗徳師島尻師神里連成戦名
汗嘉山三辰開
全師令即水須
全 師令即入重瀬出
全 令 東月平及新道
全 令 港川新垣赤浦

一人の功績顯著なる者

人 職 独立師隊高射砲中隊長

之官 陸軍少佐

氏名 須藤久七

功績事項

昭和九年五月五日南西空襲時防空隊並台北空軍隊に於て
射撃指揮官として戦果顯著なりと以て高射砲司令部より
賞諭を受け昭和十一年一月三日三三三三空襲時防空隊に於て自ら
指揮官として沖繩崎防備と全空せると以て賞諭を

賞与賞罰

昭和三年四月二日高射砲地砲演習極具適確たるを以て賞与
昭和三年五月三日 昭和九年一月五日以来の數回の防空戦及沖繩
戦以來不遺餘力に防空戦に迅速高切なる部隊指揮官として
高射砲の任務を全うし軍作戦に有利なる事甚大なりと以て
高射砲司令部の賞与に於て其功績を表彰し功績に技術あり以て
又射撃隊長として積極的に地上遠距離射撃を実施し
実施の成績を擧げ此一軍作戦に貢献せしむる又軍司令部より
所与り又昭和三年五月二日高射砲の大部隊砲撃の爲に破壊
自高射砲司令部に賞見と見用して直ちにその大隊を統率し
て地上砲兵隊に美加加輝砲に在りて部下を鼓舞し八重瀬島
嶺南半島の防壁陣地に善戦善斗し敵の進出を妨ぐ
昭和九年六月五日大隊の首領の博米須に敵戦車の蹂躞を受
けし戦車に肉迫攻撃を行はせし中に入りて再び戦車に
肉迫攻撃を行はせし中に入りて再び戦車に肉迫攻撃を行はせし

自昭和三年三月... 功績事項... 陸軍少佐... 須藤久七... 功績事項... 陸軍少佐... 須藤久七... 功績事項... 陸軍少佐... 須藤久七...

昭和七年五月... 功績事項... 陸軍少佐... 須藤久七... 功績事項... 陸軍少佐... 須藤久七...

昭和七年五月... 功績事項... 陸軍少佐... 須藤久七... 功績事項... 陸軍少佐... 須藤久七...

自昭和三年...
 至...
 至...
 至...
 至...
 至...
 至...

在 全
 冲绳島反神里...
 全...
 全...
 全...

一 個人の功績顯著者...

佐軍少佐...

功績事項...
 氏名...
 須藤久七

昭和三年...
 射撃指揮官...
 賞状...
 功績事項...
 氏名...
 須藤久七

官...

昭和三年四月...
 射撃...
 功績...
 氏名...
 須藤久七

此は全隊の
高射砲大隊長として其の任務を全うし又地味部隊として天介
隊長の職務を果し其の自軍人精神の指針を、其の
身が精神の中心として其の切切校隊を

職

大隊指揮班長

官

陸軍大尉

代

西尾八右衛門

功

績事項

昭和二年四月廿六日中絶行場上空に敵機数機十機後
入し輝重開始下高射砲隊は大隊は直ちに之を要撃し敵機は
そのうち三機を撃墜し、外は直ちに敵機は撃墜し、敵機は
の敵機を修りたり、之を指揮班長、大隊長、神佐良、目、各中隊射撃
指揮班の所長大に、其の敵機判断の精確に、目、各中隊射撃
指揮班の迅速適切に、其の敵機判断の精確に、目、各中隊射撃
以後の部隊隊形は素を教養し、其の甚天、其の切切校隊を